業界人登場

㈲高橋写真製版　高橋 健一郎社長

――CTPとIJPの導入から1年がたちました

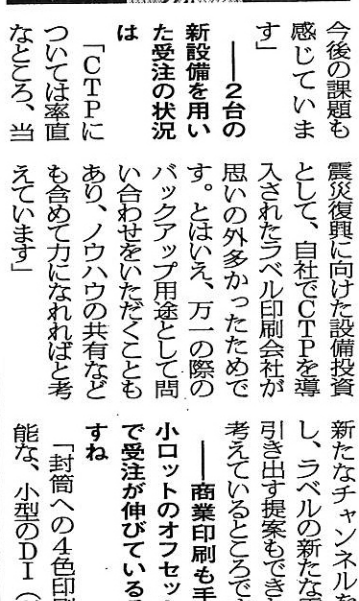
創業以来続いている製版業に加え、小ロットの一般印刷やオンデマンド印刷なども手がける㈲高橋写真製版（仙台市若林区鶴代町、高橋健一郎社長、☎022・236・9818）。亜鉛版、樹脂凸版の加工を通じてラベル業界とも長年関わってきた同社は昨年3月、エスコグラフィックスのCTP「CDI Spark2120」およびローランド ディー．ジー．のインクジェットプリンタ（IJP）「VersaUV LEC-540」を導入。ラベル印刷会社をターゲットに、高精細な製版と本紙校正のサービスを提供している。これら事業の現況と展望について、高橋社長に聞いた。

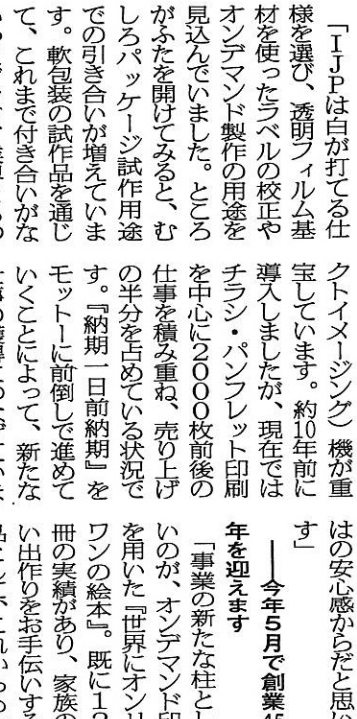
◇◇◇

「あると助かる」地場企業に

「当社は創業した父の代から、製版事業を通じてラベル業界に支えられてきました。今回の新設備は、その恩返しとして温めてきたもので、当初は2011年3月に入れる予定でした。ところが東日本大震災の発生で、先の見通しが全く立たなくなり、いったん棚上げに。導入は結局1年遅れとなりました」

「CTP版の受注は、ラベル印刷会社からの新版がほとんど。リピートと比べればハードルは低いともいえますが、それでもラベル印刷会社での色出しは簡単ではないというのが実感です。大切なのはやはり、版を納め、刷ってもらい、互いにコンセンサスを取りながら進めていく作業。学ぶことも多いですし、より厳格な色が出せる製版など、初目標には達していません。これには理由があり、今後の課題も感じています」





ラベルの印刷品質向上に貢献するCTP

――2台の新設備を用いた受注の状況は

「CTPについては率直なところ、当震災復興に向けた設備投資として、自社でCTPを導入されたラベル印刷会社が思いの外多かったためです。とはいえ、万一の際のバックアップ用途として問い合わせをいただくこともあり、ノウハウの共有なども含めて力になれればと考えています」

――商業印刷も手がけ、小ロットのオフセット印刷で受注が伸びているそうですね

「封筒への4色印刷も可能な、小型のDI（ダイレクトイメージング）機が重宝しています。約10年前に導入しましたが、現在ではチラシ・パンフレット印刷を中心に2000枚前後の仕事を積み重ね、売り上げの半分を占めている状況です。『納期一日前納期』をモットーに前倒しで進めていくことによって、新たな仕事の獲得につなげています」

「IJPは白が打てる仕様を選び、透明フィルム基材を使ったラベルの校正やオンデマンド製作の用途を見込んでいました。ところがふたを開けてみると、むしろパッケージ試作用途での引き合いが増えています。軟包装の試作品を通じて、これまで付き合いがなかったグラビア業界ともつながりができました。このほかにも、新たなチャンネルを生かし、ラベルの新たな需要を引き出す提案もできればと考えているところです」

――今年5月で創業45周年を迎えます

「事業の新たな柱としたいのが、オンデマンド印刷を用いた『世界にオンリーワンの絵本』。既に120冊の実績があり、家族の思い出作りをお手伝いする商品として、これからも一層注力していきます」

「PS版で取引のある一般印刷会社から急ぎの仕事を任されることもあるなど、印刷事業もやはり、製版事業を通して培ってきた信頼の上で成り立っているものです。インターネットの印刷通販と比べれば、当社の価格は決して安くありません。それでも評価をいただけるのは、仕上がりの早さ、そして顔が見える地場企業ならではの安心感からだと思います」

「ラベル関連では、東北協組協賛会で唯一の製版業者として、引き続き東北の地にしっかりと根ざし、『あると助かる』と言われるような事業を続けていきたい。製造元が生産を終了した箔押し用の亜鉛版については、なお十分な在庫を確保していますが、長期的な安定供給に向けて、ユーザーに納得いただける方策をと知恵を絞っているところです」

（相馬）